



第98回 イギリスの市民革命②



息子リチャード
なんだかんだで、
かなり長生きした。

1 共和政への不満と王政復古

- 1658年、クロムウェルが死に息子が後を継ぐと、民衆の不満が爆発した。
→1660年、勢力を盛り返した長老派を中心とする議会は、フランスに亡命していたチャールズ2世を呼び戻して国王とした。



チャールズ2世
処刑されたチャールズ1世の息子。髪型がすてき。女好き。

- ◆ () (在位 1660～1685年)
 - 1660年、ステュアート朝が復活し () となった。
 - しかしチャールズ2世は、カトリックに近い考えを持っており、また父や祖父と同じように絶対王政を行おうとした。
→議会は () や () を制定して対抗した。
※審査法によりイギリス国教徒以外が公職に就くことは禁止された。



ジェームズ2世
悪役のイメージが強いが、
再評価されつつある。

- ◆ () (在位 1685～1688年)
 - チャールズ2世の弟で、やはりカトリックと絶対王政の復活を目指した。
 - 議会では、() と () が対立していた。
→国王の権威を重んじ、ジェントリの利益を代表するトーリ党。
→議会の権利を主張し、商工業者や非国教徒の立場を擁護するホイッグ党。

2 名誉革命

- 1688年、ついに議会はジェームズ2世を退位させ、フランスに亡命させた。
→1689年、議会は「 」を出して、王権の大幅な制限を宣言した。



メアリ2世
ジェームズ2世の娘である。政略結婚でオランダに嫁いでいた。

- ◆ () (在位 1689～1702年)
- ◆ () (在位 1689～1694年)
 - ステュアート家の血をひくオランダ総督であったウィレムとメアリの夫妻は、権利の宣言を認めて、共同のイギリス王として即位した。
※無血のまま革命が成功したので、これを () という。
これにより、一時的に () が成立した。
 - 1689年、権利の宣言は「 」として法文化された。
→これによりイギリスでは () が確立されていった。
 - 1694年、() を創設した。
→国債制度も整備され、イギリス資本主義の発展を促した (財政革命)。



夫妻は寛容法を制定し、プロテスタントの信教の自由も認めた。2人の結婚は政略結婚であり、夫婦仲はよくなかったとされる。そのため子供はできなかった。

「権利の宣言」を認めるウィリアム3世とメアリ2世夫妻



アン女王
子供に次々と先立たれた。抗リン脂質抗体症候群という病気だったらしい。

- ◆ () (在位 1702~1714 年)
- ・スペイン継承戦争に連動して北米の () を行い、フランスに勝利した。
→1713 年、() でフランスとスペインから領土を獲得するとともに、スペインとのアシエント (奴隷供給契約) を独占した。
- ・1703 年、ポルトガルとメシュエン条約を結び、貿易を有利に進めた。
- ・1707 年、イギリス (イングランド) とスコットランドが正式に合併して、() が成立した。



イングランド



スコットランド

+



グレート=ブリテン王国

3 議会政治のはじまり

- ・1714 年、アン女王が後継者を残さず死去し、() した。
→親戚であったドイツの () がイギリス王となった。



ジョージ1世
家庭は崩壊しており、妻や息子との関係は最悪だった。

- ☆ () (1714~1917年にウィンザー朝へ改称~2022年現在)
- ◆ () (在位 1714~1727 年)
- ・しかしジョージ1世は英語を喋れず、故郷のドイツにいることが多かった。
→「
」と言われる状態となった。
- ・1721 年、議会の多数派であったホイッグ党の () が、初代首相として () を組織し、政治の責任者となった。
→議会の多数派の代表が首相となる () が成立した。



ウォルポール首相

初代首相にして、イギリス議会政治の基礎を固めた人物。なんと 19 人兄弟の5番目。1742 年まで 20 年以上政権を率いた。



スナク首相

第79代首相。2022年トラス首相の後を継いで保守党党首となり、イギリス首相となった。初のインド系でヒンドゥー教徒の首相。イギリスとインドの関係を考えると感慨深いものがある。



イギリスの国会議事堂

テムズ川沿いにあるイギリスの国会議事堂。ここがイギリス政治の中心となっていた。右にある時計塔の愛称はビッグ=ベン、正式にはエリザベス=タワーという。

4 イギリスの市民革命の意義

- ・17 世紀のイギリスで起こったピューリタン革命と名誉革命は、18 世紀末に起こったフランス革命に先駆けて、絶対王政を打倒する市民革命であった。



ロック
中学の社会でも登場するくらい有名な方。

- ・王権の制限については、あくまで 13 世紀のマグナ=カルタの延長であった。
- ・イギリスの思想家 () は、『
』を名誉革命の翌年に発行し、社会契約説の立場から革命権を説いて名誉革命を擁護した。
→アメリカ独立宣言やフランス人権宣言に大きな影響を与えた。
- アメリカ独立宣言やフランス人権宣言に大きな影響を与えた。
- ・議員は地主の () が多く、民衆の政治参加は実現しなかった。
- ・宗教的にはイギリス国教会が中心であり、特にカトリックは差別を受けた。